

2022年7月5日

博士学位審査 論文審査報告書（課程内）

大学名 早稲田大学
研究科名 大学院人間科学研究科
申請者氏名 海老澤 圭視
学位の種類 博士（人間科学）
論文題目（和文） 中国北京市の高齢者介護施設における介護人材育成に関する研究
論文題目（英文） Research on Competencies of Workers in Care Facilities for Older People in Beijing, China

公開審査会

実施年月日・時間 2022年6月13日・11:00-12:00
実施場所 早稲田大学 所沢キャンパス 100号館 第1会議室

論文審査委員

	所属・職位	氏名	学位（分野）	学位取得大学	専門分野
主査	早稲田大学・教授	松原 由美	博士（福祉経営）	日本福祉大学	福祉経営学
副査	早稲田大学・教授	扇原 淳	博士（医学）	順天堂大学	公衆衛生学
副査	早稲田大学・ 名誉教授	加瀬 裕子	博士（人間科学）	早稲田大学	老年学
副査	早稲田大学・教授	金 群	博士（工学）	日本大学	情報システム学

論文審査委員会は、海老澤圭視氏による博士学位論文「中国北京市の高齢者介護施設における介護人材育成に関する研究」について公開審査会を開催し、以下の結論を得たので報告する。

公開審査会では、まず申請者から博士学位論文について30分間の発表があった。

1 公開審査会における質疑応答の概要

申請者の発表に引き続き、以下の質疑応答があった。

- 1.1 コメント：中間報告よりも改善され、わかりやすい良い発表であった。
- 1.2 コメント：前半の4章までの中国の介護体制に関する一つ一つの章が論文になるほどの内容。今回の発表で介護人材育成の論文だと明確になった。1章から4章は背景説明であり、5章と6章が本論である。
- 1.3 質問：中国では高齢者施設の介護職員が在宅介護を行うこともあるのか。
回答：施設種類にもよるが、高齢者施設の介護職員が在宅介護を実施することはある。
- 1.4 質問：在宅介護は地域の行政の主導で提供されるのか。

回答：民間に委託する前提ではあるが、政府が主導して提供されている。

- 1.5 質問：介護職のリスク低減に関する技能というのは、具体的にはどのようなリスク低減があるのか、どのようにその技能を向上させようと考えているのか。客観的基準に基づいた介護技能評価とは具体的にどのような評価が可能なのか。ストレスナーの分析では共分散構造分析を行っているのに、バーンアウトの調査では、重回帰分析だけで終えて共分散構造分析をしていない理由は何か。リスク対策は個人、施設、団体で行うものがあるだろうが、それぞれどのような仕組みが考えられるのか。

回答：リスクマネジメントについては、予防的スキルがあげられる。その中で最たるものが死亡事故にも繋がる入浴介助である。それを研修で軽減させられたらと考えている。客観的基準に基づいた介護技能評価については論文に追記したい。バーンアウトの調査についても共分散構造分析を行いたい。

- 1.6 質問：死亡事故に繋がるのは入浴だけではなく転倒や食事などもあるはず。入浴介助が一番だといえる根拠があれば示してほしい。

回答：因子負荷量について予防的スキルの中で入浴介助が一番高かったためである。

- 1.7 質問：中国の高齢者ケアの介護者の平均年齢や性別の割合などは、国のデータと今回の調査のデータは同じ傾向にあるのか。

回答：介護事業は始まって日が浅いため、そもそも国のデータがないのが現状である。

- 1.8 質問：農村から出稼ぎで来ている女性が多く、住み込みが多いのではないか。

回答：北京市に在住し通勤している者も多いが、ご指摘のとおり施設の中の空いているベッドを利用している、または寮による住み込みが多い。

2 公開審査会で出された修正要求の概要

- 2.1 博士学位論文に対して、以下の修正要求が出された。

- 2.1.1 高齢者ケア体制という論文タイトルと、介護施設の人材育成に関する実証的な論文の中身に開きがあると思われる。タイトルの変更を求める。
- 2.1.2 高齢者ケアの質に関する言及を求める。
- 2.1.3 本研究が日本や世界の高齢者ケア対策に対しどのように貢献するのかの言及を求める。
- 2.1.4 マクロからミクロの話に進むので、第1章の節は1.3.2.の順番の変更を求める。
- 2.1.5 なぜ北京市が対象なのかの記述を求める。
- 2.1.6 英文タイトルでpeopleだけが頭文字が小文字なので修正を求める。
- 2.1.7 図表の番号は章ごとの通し番号とし、文と表の注釈は記号を分けた修正を求める。
- 2.1.8 研究倫理について、5章と6章でそれぞれ記述があるが、データも対象者も同じ、内容も同じなので、統一した表記を求める。北京大学の承認について6章に記述があるが5章にはない。北京大学の承認番号などがもしあれば記入を求める。
- 2.1.9 入浴事故が多いなどの公表数字もあれば追記を求める。

- 2.2 修正要求の各項目について、本論文最終版では以下の通りの修正が施され、修正要求を満たしていると判断された。
 - 2.2.1 タイトルを「中国北京市の高齢者介護施設における介護人材育成に関する研究」に変更した。
 - 2.2.2 第2章第4節、第5節および第3章第7節に加筆した。
 - 2.2.3 第7章に加筆し、本研究の結果に関連させて考察を深める修正が行われた。
 - 2.2.4 ご指摘のとおり修正を行った。
 - 2.2.5 第2章の最後と第3章の冒頭に加筆した。
 - 2.2.6 タイトルの変更に伴い、英文タイトルも修正し頭文字は大文字に統一した。
 - 2.2.7 ご指摘のとおり修正を行った。
 - 2.2.8 同一データの説明については、63頁で前章と同じ旨を記し統一した。また第4章第3節(4)の49頁及び第5章第3節(4)の64頁で、調査当時、北京大学には倫理審査委員会が存在しなかった点、適切に調査した点、帰国後に早稲田大学でデータ利用に関し倫理審査委員会の承認を得た点を記した。
 - 2.2.9 詳細に調べたが中国には介護事故に関する公的データがなかった。

3 本論文の評価

- 3.1 本論文の成果の明確性・妥当性：本論文の目的は、中国における施設介護人材の直面する問題を明らかにすることであり、明確かつ妥当である。
- 3.2 本論文の方法論（研究計画・分析方法等）の明確性・妥当性：介護人材のストレスとバーンアウト研究では、MBI (Maslach Burnout Inventory) は定評のある尺度であり、職員の燃えつき症候群が離職だけではなく、職務上の怠惰を生じることを数々の研究で実証してきた。本論文がMBIによる分析方法を採用したことは妥当である。
なお、本論文で実施した調査の手続きについては、早稲田大学「人を対象とする研究に関する倫理委員会」の承認を取得し(研究1:2020-HN033, 研究2:2020-HN033)、調査の前には参加者に対して調査概要についての十分な説明を行い、インフォームドコンセントが得られた上で実施したとしており、倫理的な配慮が十分になされていると評価した。
- 3.3 本論文の成果の明確性・妥当性：中国の介護人材の技術面での不安が、ストレスの原因であることが統計的に明らかにされた。これらの結果は、先行研究の結果でも「介護事故で利用者にケガをさせてしまう不安」がストレスと関連することが示されており、妥当な結果である。
- 3.4 本論文の独創性・新規性：本論文は、以下の点において独創的である。
 - 3.4.1 中国における介護政策が民間企業に施設の運営管理を任せようえで行われるという特殊性を有することを論じ、その論点から「介護の質」問題、介護人材の技術問題を実証していく論理的展開に新規性がある。
 - 3.4.2 中国の介護保険は社会実験段階にあり、その先進地である北京市の介護施設人材の実態を明らかにした論文はほとんどない。本論文は、初めて先進地における人材問題を検証したものであり、ここに本論文の独自性がある。

- 3.5 本論文の学術的意義・社会的意義：本論文は以下の点において学術的・社会的意義がある。
- 3.5.1 中国における高齢者介護問題が、後発の政策であり、民間企業主導で問題解決を図る方針であり、それゆえに介護の質向上という課題を抱え、介護人材の技術問題が政策の焦点であることを明らかにした点で社会的意義がある。
- 3.5.2 中国の介護政策目標や先進地における介護保険などを、これまで日本に紹介されなかった中国語の資料を駆使して研究を進めており、学術的価値がある。
- 3.6 本論文の人間科学に対する貢献：本論文は、以下の点において、人間科学に対する貢献がある。
- 3.6.1 中国における高齢者介護問題が、政策のみならず、家族の責任や儒教的文化との関連で記述され、それらが技術問題に連鎖する関係が示唆された。つまり、中国における介護問題を解決するには、文化人類学・政治学・社会学・医学・看護学・介護学など学際的アプローチが必要であることを提示しており、人間科学に寄与するものである。
- 3.7 不適切な引用の有無について：本論文について類似度を判定したうえで精査したところ、不適切な引用はないと判断した。
- 4 学位論文申請要件を満たす業績（予備審査で認められた業績）および本論文の内容（一部を含む）が掲載された主な学術論文・業績は、以下のとおりである。
- 海老澤圭視, 加瀬裕子 (2021) 介護技能自己評価によって規定されるストレスサーへの二次的評価に関する研究-中国北京市における高齢者介護施設職員を例に-, 人間科学研究, 34(2): 93 - 99.
- Keishi Ebisawa, Kazuhiro Uchida and Hiroko Kase (2022) Depressive Tendency among Care Workers in Long-Term Care Facilities for Older Adults and the Predictive Effects of the COVID-19 Pandemic in Japan: From the Viewpoint of Workplace Social Capital, Japanese Journal of Social Welfare, 62 (5): 1-11.
(掲載予定)
- 海老澤圭視, 加瀬裕子(2020) 中国の在宅ケア：在宅ケアの推進と長期療養保険制度の試行, 日本在宅ケア学会誌, 24(1): 12-17.
- 5 結論
- 以上に鑑みて、申請者は、博士（人間科学）の学位を授与するに十分値するものと認める。

以 上